

支え合いの輪を広げる

2026年
5/28

女性ボランティアクラブ 総会

町女性ボランティアクラブ（桧森千枝子会長）の定期総会が社会福祉センターで開催され、会員や来賓合計約50人が出席し、今年度の活動方針などを決定しました。桧森千枝子会長は「会員の高齢化が進む中、若い方が3人入っていただき、大変喜ばしい。お体にご自愛しながら協力・参加いただけたら幸いです」とあいさつを述べ、会員に協力を呼びかけました。



ボランティア活動の継続を呼びかける桧森会長

止まぬ物価高騰に対策を

2026年
5/27

商工会が要望書を提出

白糠町商工会（高橋隆助会長）から、長期化するエネルギー価格や原材料の高騰による事業者や町民から寄せられた声を受け、「元気しらぬか応援券事業」の実施を求める要望書が町へ提出されました。

応援券事業は、家計負担の軽減や事業者支援に加え、町内消費の拡大による地域経済の活性化にもつながっています。



高橋会長（左）から要望書を受け取る棚野町長

しらぬか愛を育む

2026年
5/30

ふるさと未来塾開講式

ふるさと未来塾の開講式が社会福祉センターで開催され、今年度は17人の児童が参加登録しました。1年間の活動を通じて白糠の魅力学びます。

1回目の活動は、地元食材を使ったホッキカレー作りを体験し、ソーラーグレージングの見学を行いました。

参加した白糠学園4年生の佐藤奏心さんは「ホッキがおいしかった、家でも作りたい」と笑顔を見せました。



ホッキ貝の殻剥きに悪戦苦闘する参加者

正しい姿勢で健康な生活を

2026年
5/30

しらぬか健康 ウォーキングイベント

町は「しらぬか健康ウォーキング事業」を推進しており、30日に西庶路地区でウォーキング教室「西庶路のまちを歩いて健康づくり」を開催しました。

町民22人が参加し、インストラクターの指導のもと、正しい歩き方を学びました。参加した70代の女性は「初めての西庶路開催で嬉しい。友人とお話をしながらウォーキングができて楽しかった」と話していました。



ウォーキングを楽しむ参加者

自分の言葉で思いを伝える

2026年
5/23

少年の主張

町教育委員会主催の「第48回白糠町少年の主張」が町社会福祉センターで行われました。中学校・義務教育学校後期課程の生徒5人が登壇し、白糠学園9年生の江本心海さんが最優秀賞に輝きました。

江本さんは「笑顔の魔法」と題し、級友との日々を例に挙げ「笑顔は緊張した空気を和らげ、距離を縮め、関係をつなぎ直してくれる力がある」と述べました。



最優秀賞を受賞した江本さんの発表

気に入った絵本がもらえる

2026年
5/20

ふるさとブックサード

小学校・義務教育学校の1年生に3冊の絵本を読み聞かせ、児童が気に入った1冊をプレゼントするブックサードを本年も実施しました。

この日は「よみきかせの会☆星の子（鍛冶恵子代表）」の3人が庶路学園を訪問し、絵本の読み聞かせを行いました。児童は笑ったり真剣な表情を見せたりしながら物語を楽しんでいました。



絵本の読み聞かせを楽しむ1年生

町の安全・安心を支える

2026年
5/25

創建社寄付贈呈式

建築設計業などを営む札幌市の株式会社創建社（森下京佐代表取締役社長）から町に、企業版ふるさと納税として100万円の寄付がありました。

同社は町の津波避難タワーや白糠消防庁舎の設計を手掛けています。森下社長に感謝状を手渡した棚野孝夫町長は「大切にに使わせていただきます」と謝辞を述べました。



森下社長（左）へ感謝状を贈呈する棚野町長

訓練で磨き上げた団結力

2026年
5/24

消防団春季消防演習

白糠消防団（桐原千里団長）と釧路市西消防署白糠支署（藤田寛支署長）の春季消防演習が白糠消防庁舎で行われ、団員59人、署員18人が日ごろの鍛錬の成果を発揮しました。

演習は分列行進から始まり、服装・機械器具点検の後、小型ポンプ・消防ポンプ車操作法を実施し、団員たちは迅速かつ的確な動作で訓練をこなしていました。



息の合った連携で力強い放水を披露する団員